

# 令和7年度ユネスコ委員会 活動報告

# 目次

---

1 バザー班

---

2 新企画班

---

3 寺子屋班

---

4 衣料班

---

5 その他の活動

---



# 年間スケジュール

- ◆各班による活動計画の立案・準備開始
- 4月 ◆グローバル市民デー実施
- 7月 ◆港ユネスコ協会主催講演会・多文化理解ワークショップ
- ◆白珠祭にてユネスコバザー開催（フェアトレード商品販売、クイズラリー実施）
- 9月 →売上・募金56,980円を〈地球のステージ〉に寄付
- ◆白珠祭にてワークショップを開催
- 10月 ◆古着回収キャンペーン①（11/17～22）実施
- ◆古着回収キャンペーン②（12/15～19）実施
- 11月 →寄付先：ブリッジ エーシア ジャパン（BAJ）
- ◆講演会：BAJより講師を招き、衣料支援の意義について学ぶ
- 12月 ◆書き損じはがきをユネスコ世界寺子屋運動へ寄付
- ◆日本語スピーチコンテスト運営ボランティア
- 2月 「世界の記憶から平和を考える」シンポジウム
- 3月10日 ◆ウクライナ大使館を訪問、現地の声から平和について考える機会に
- 3月28日 ◆シンポジウム「高校生と創る平和・教育とダイアログ」を本校で開催（参加者約50名）

# バザー班

**秋に開催される白珠祭(文化祭)にてバザー開催と募金活動**

**収益は全額ガザ地区への支援を行う団体に寄付**

# ユネスコバザー

- 9/6、9/7の白珠祭にてバザーと募金活動を実施
- 収益総額56,980円（売上額・募金額）
- →国際NPO「地球のステージ」を通して全額ガザ地区へ寄付
- 生徒会から文化祭の売り上げ（食品等）90086円、図書委員会の古本市の売り上げ11500円も合わせて計158566円を寄付（手数料差し引き）



# 寄付先団体について

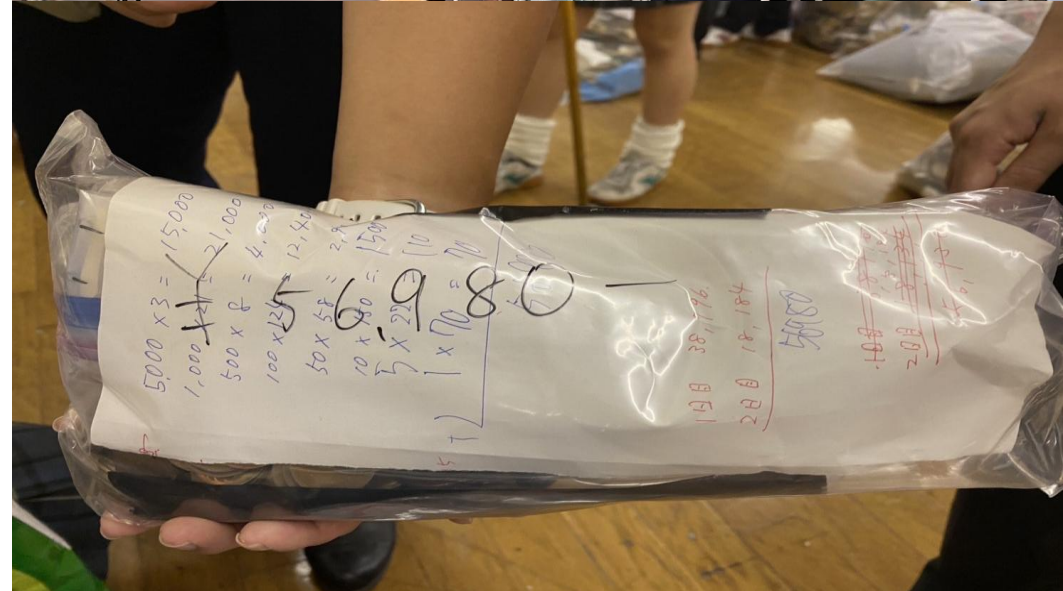
「地球のステージ」

→2002年に創立され、5か国で支援・公演事業を行うNPO。

医療・心のケア・教育・災害復興を行う。

・昨年本校で講演会を開催した際、紹介いただいたガザ地区の活動員の方が3月に亡くなり、三田高生ができることのひとつとして寄付を決定。

・7/15には委員向けに事前講演も開催。



地球のステージ

# ガザの現状

---

イスラエル軍による爆撃による  
避難民が多数。

物価高騰など困窮した生活を強  
いられている。

多くの人、特に子供は戦争によ  
るトラウマからストレス障害であ  
るPTSDを発症。





# 心のケア

**地球のステージはPTSDを抱える子供たちに向けて心のケアを行う。**

**絵画や粘土細工による表現活動やフラフープを使った運動や音楽による心のケアを行う。**



さいごに…

**「今回のバザーで学校での慈善活動  
が広がり、委員会が目指す平等で平  
和な社会への第一歩となりました！」**

**白珠祭のバザーでご購入してくださっ  
た方々、募金にご協力していただいた  
方々、地球のステージの皆様、ありが  
とうございました！**

# 新企画班

**毎年度新しい企画を考案・実施**

**バザーにてエコワークショップを開催！**

# ワークショップ。

テーマ：

「ペットボトルキャップを再利用したキーホルダー作り」

幅広い年齢層の方が体験。

→ 普段何気なくリサイクルBOXに入れているキャップが、このように再利用されていることを知り、リサイクルへの**具体的なイメージ**をもつことができた。

また、自ら手を動かして**再生の過程を体験**したことで、資源を大切に**する意識が一層高まった**。

これからも身近な場面で環境への配慮を**意識して行動していきたい**。

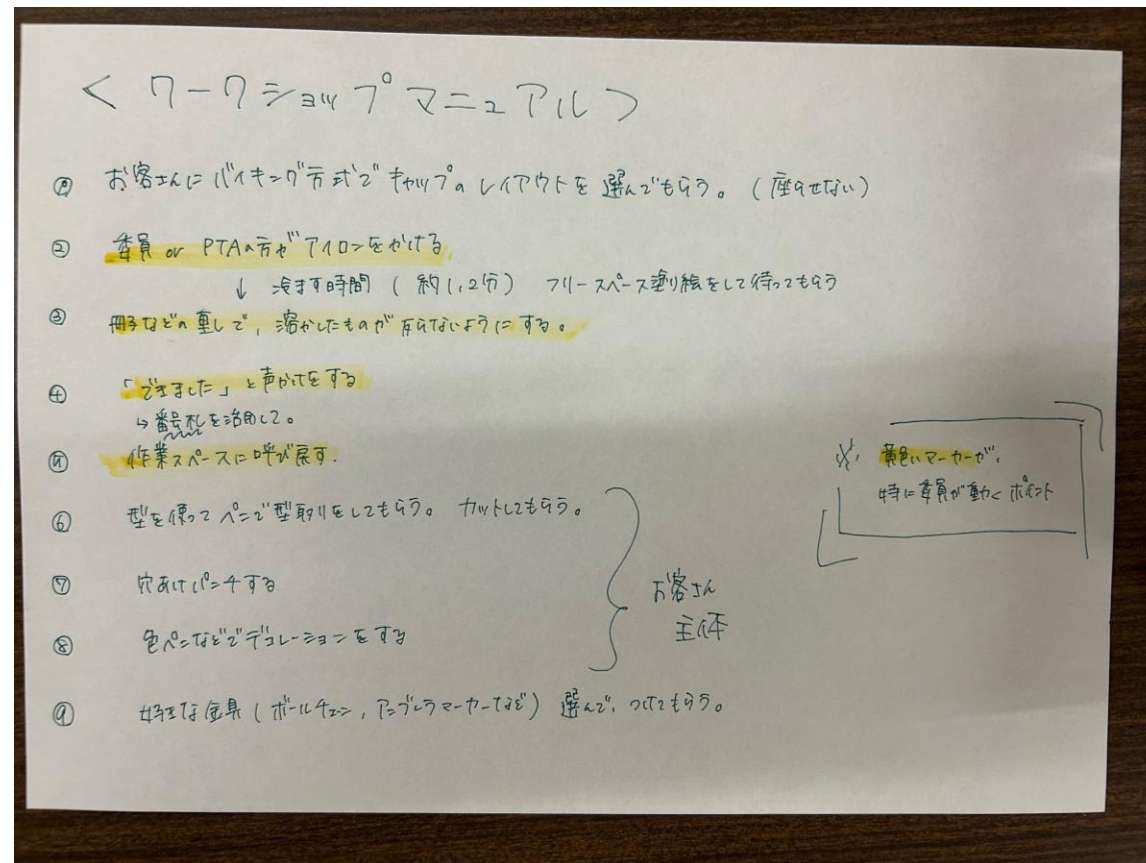


# 委員とPTAの方々の協力

ユネスコ委員としても、ワークショップは初の試み。

→マニュアルを作成して、誘導の方法や作り方を再確認

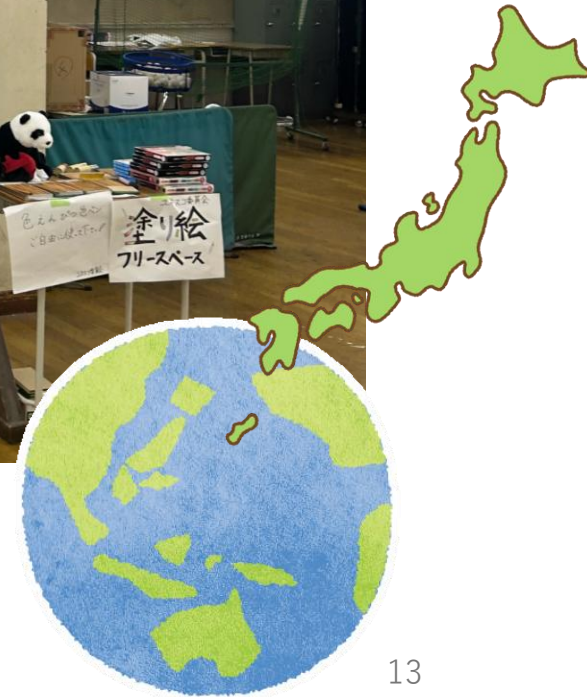
実際にPTAの方と一緒に前日に試作したことにより、当日はスムーズに行うことができた。



# FREE SPACE の追加

バザーの回収品にあった  
大きな塗り絵を  
塗り絵のFREE SPACE  
としてアレンジ!!

キーホルダー作りのアイロ  
ンの待ち時間としても活  
用。





## 最後に

今年の初チャレンジであるワークショップは手こずったところもあり、より改善できた部分もありましたが、委員のみんなが協力し合って活動する姿が多く見られました。

また、PTAの保護者の方々のサポートもあり、何とか乗り越えることができました。

本当にありがとうございました！！

# 寺子屋班

**書き損じはがきの回収**

**寺子屋リーフレット作成プロジェクトへの参加**

# 活動内容

## 「ユネスコ世界寺子屋運動」への参加

世界寺子屋運動への参加を通して、ひとりでも多くの子供に教育の機会が与えられることを目標に活動しています。

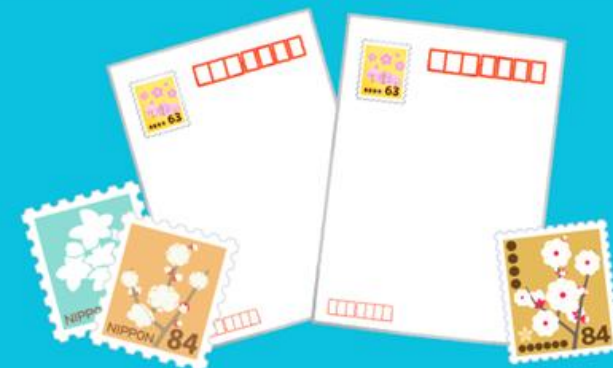
書き損じはがき  
回収

寺子屋リーフレット  
制作プロジェクト

校内への寺子屋  
運動の周知

## 書き損じはがきの回収

- 寺子屋班では1/13から1/30の約3週間にわたり書き損じはがきの回収を行いました。
- 書き損じはがきのほか、未使用切手やギフトカードなども回収を呼びかけました。
- 回収されたはがきなどが募金に代わり世界寺子屋運動の活動に寄付されます。



## ユネスコ委員会 書き損じハガキ回収

ユネスコ委員会で書き損じハガキの回収を行います！

回収されたハガキなどが募金に換わり  
世界寺子屋運動の活動に寄付されます。

### 回収するもの

未使用切手、商品券、図書券、  
旅行券、株主優待券、図書カード、  
QUOカード、テレホンカード、  
ギフトカード、書き損じハガキ

回収場所:食堂の回収ボックス

期間:1/13(火)~1/30(金)

ご協力よろしく申し上げます！！



みなさまのご協力によりたくさん  
の書き損じはがきを集めることができました。  
はがき12枚でひとりの子供が  
1か月学校に通うことができます。  
ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

# リーフレット制作に向けて

1

世界寺子屋運動について学ぶ

2

リーフレット制作

3

作品のブラッシュアップ

4

コンテストに応募、校内での寺子屋運動の周知

5

応募作品

佳作に入選しました！  
たくさんの投票ありがとうございました！



# 衣料班

古着の回収・寄付

# 古着の寄付を行いました！

毎年衣料班では毎年、校内での古着の回収と海外への寄付を行っています。

今年も11月17～22日、12月15～19日の2回に分けて回収期間を設け冬休み明けに梱包、発送を行いました！

ポスター掲示や保護者向けの配信を通じて宣伝を行った結果、たくさんの寄付が集まりました！



ユネスコ委員会  
衣料寄付  
に合わせた  
古着回収

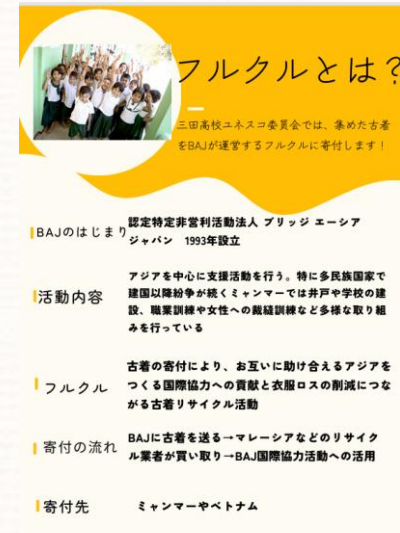
寄付できるもの  
・着崩れ、汚れ  
・ぬいぐるみ、かばん  
・靴(革靴、運動靴)スニーカー、ぽうし、毛布、ぬいぐるみ、シーツ、タオル

寄付できないもの  
・動物、毒物、作早服  
・社名や学名が入っているもの  
・破損したもの  
・入り口、裏地、ゴム製品  
・乾燥機が通らないもの  
・破損品  
・手刺し・刺繍品

寄付先…BAJ(フルクル)  
集めた古着はミャンマーやベトナムに寄付され、国際協力への貢献や衣料ロス削減につながります。

回収日：12月15日～12月19日

回収場所：1階食堂前  
郡立三田高校ユネスコ委員会



フルクルとは？  
三田高校ユネスコ委員会では、集めた古着をBAJが運営するフルクルに寄付します！

BAJのはじまり 認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン 1993年設立

活動内容 アジアを中心に支援活動を行う。特に多民族国家で建国以降紛争が続くミャンマーでは井戸や学校の建設、職業訓練や女性への裁縫訓練など多様な取り組みを行っている

フルクル 古着の寄付により、お互いに助け合えるアジアをつくる国際協力への貢献と衣服ロスの削減につながる古着リサイクル活動

寄付の流れ BAJに古着を送る→マレーシアなどのリサイクル業者が買い取り→BAJ国際協力活動への活用

寄付先 ミャンマーやベトナム

# 発送状況



皆様のご協力のおかげで  
去年を超える量の古着が集  
まりました。  
ありがとうございました！



# 寄付先

## フルクル（認定NPO法人ブリッジエーシアジャパン）

1993年設立。ベトナムやミャンマーを中心に、貧困、紛争、難民などの問題を抱えるアジアの国々でインフラ整備、職業訓練、寄付活動などを行っている。日本での啓発活動を通じて、アジアの国々と日本の架け橋となることを目指している。

**フルクルとは？** 古着を段ボールに詰めて送ると、リサイクル業者が買い取り国際協力への貢献や衣料ロス削減につながるBAJの活動です

# 講演会を開催しました！

フルクルへの寄付に先立ち、今年もBAJ事務局長、新石正治様を三田高校にお呼びし講演会を開催しました！



## ーミャンマーの現状

中国、インド、タイに接し、天然震源が豊富な国。100以上の民族※からなる多民族国家で、国軍、民主派、過激派民族の争いによって建国以来内戦が続いている。民主化を目指し比較的平和な時代もあったが、2021年のクーデター以降**最悪の人道危機**にある。 ※ミャンマー政府が人権を認めていない民族もある

### BAJの活動

BAJは国連機関からの委託を受けミャンマーでの活動を開始。当初は道がなくトラックが使えないため、人の手でソーラーをつくることもあった。2025年3月には、紛争被害者が逃れた地域で地震が発生。BAJは**心のケア**を行っている。



BAJ [Book & Toy ミニライブラリー事業](#)



## レピテーションリスク

ミャンマーについてふれると立場を問われることがある。現地の団体も事務所が襲撃を受けるのどのリスクがある。



## ミャンマーの人々

現在、ミャンマーの人々の半分以上が失業している状態。仏教の影響で人々の雰囲気は落ち着いている。  
☆三田高校近くの増上寺でミャンマー祭りが開催されている。



BAJ [【ミャンマー祭り】5/25・26 皆様のお越しをお待ちしています！](#)



# 古着寄付の現状

日本では年間**50万トン**の衣料ロスが発生。大手衣料メーカーや中小企業の寄付活動によって古着の回収量が増えている。

## 古着の行方

リサイクル業者が1kg15円で買い取り、マレーシアで分類された後ミャンマーやベトナムに再輸送される。

☆集まった古着の2%はマレーシアでも使用される。

### 古着の使用用途の構成

■ リユース ■ リサイクル ■ 廃棄

日本の行政の資源回収



BAJ



→BAJはリユース率が高い！

<SDR通信Plus<sup>⑬</sup>> 寄付した服の行方。マレーシアまで追ってみた - URBAN RESEARCH MEDIA

☆古着の行方を知ることができるサイト

# その他の活動

## グローバル市民デー

港ユネスコ協会主催の講演会・多文化理解ワークショップへの参加

日本語スピーチコンテスト運営ボランティアへの参加

「世界の記憶から平和を考える」シンポジウムに登壇

ウクライナ大使館訪問

# グローバル 市民デー



# 大まかな概要



4月25日にグローバル市民デーの一環としてユネスコ委員のワークショップを行いました。

人には異なる背景や価値観があると体感し、多様性の受容ができるようなクラスの雰囲気大切に「和気あいあい」をテーマにワークショップを行いました。

# 「なんでもばすけっと」の実施

《目的》国籍や文化に限らず、人それぞれにある違いを体感する  
他者理解や共感の土台となる「違いを楽しむ」環境をクラスに生み出す  
グローバル市民として必要な“多様性の受容”を、まず身近な関係から始める



意外と〇〇と  
考える人

こう見えても  
〇〇な人～

お題は「お互いの個性」を  
深掘りできるもの！

- ① お互いクラスメイトのより深い面を知り合うきっかけに
- ② 「グローバル市民」を身近な視点でとらえられた

# グローバル市民とは



ユネスコ教育の4本の柱と本校ユネスコ委員会の取り組みについて紹介しました。



ユネスコ委員が昨年度の活動報告のパワーポイントを使って発表しました。





ワークシートを使ってグローバル市民とは何かについて考え、話し合ってもらいました。



グローバル市民とは何なのか？  
自分たちはグローバル市民なのか？  
といった問いについて考えました。

4月25日(金) グローバル市民デー ユネスコ委員主催 ワークショップ

姓 名 氏名

Q1 「グローバル市民」って何だろう…?

☆グローバル

☆市民

☆どんなことをしている人?

—

Q2 Are you "Global Citizen (市民)"?

Yes/No

Why?

Q3 これからあなたのように行動したいですか?

★最後、このワークシートを撮影し、classi note に画像を貼り付け提出してください。紙自体は各自保管。

# ダイアログ



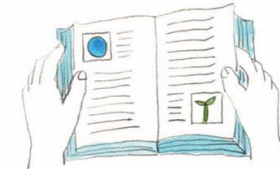
## ダイアログとは？

英語で「対話」という意味。ユネスコ新勧告では、「大切なのは他者との対話であり、世代や文化を超えてつながりを作る必要がある」と述べられている。

ユネスコ新勧告に記載されている「14の指導原則」について、カード教材を使って意見交換をすることができた！

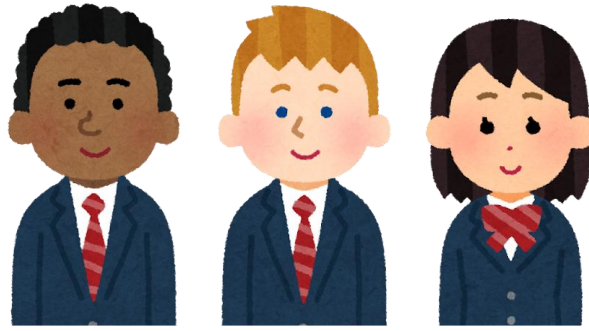
### 1. コモン・グッド

education is common for everyone  
教育はみんなのもの  
誰もが受けられる good タカラモノ



- Q1. 誰もが受けられるはずの教育を受けられない人々があります。どんな人々でしょうか？  
学校のほかで教育を実現している場には、どのようなところがありますか？  
(裏に資料)
- Q2. 近年、民間の情報産業や企業が公教育に大きな影響力をもち、サービス産業化されているという見方がなされるようになりました。あなたはこのことについてどう考えますか？
- Q3. 近ごろ、教育は私的なものという考え方が広まっているように見受けられます。教育を社会の「共通の財産」(common good)としていくためには、どうしたらよいのでしょうか？

# 生徒の反応



- 言葉の意味を改めて理解することができた。
- 身近なことも「グローバル市民」につながるのだと分かった!
- 堅い雰囲気かと思っていたが、楽しむことができた。

「国際化」  
「市民」



ユネスコ委員が  
どのような活動をして  
いるのか知れた。  
募金やバザーなど積極  
的に参加してみたい!

クラスの皆と考えを  
共有する良い機会に  
なった!



- 三田高校は他の高校に比べて国際的な活動が多いので、積極的に参加していきたい!



- 地球に住む一人として、自分もグローバル市民の一員だと自覚した。
- 「ひとりひとり」の行動の大切さが理解できた。

# まとめ



## 行ったこと

1. なんでもばすけっと
2. ユネスコについて
3. グローバル市民とは？
4. ダイアローグ

## できたこと

- ・みんなのユネスコについての理解を深められた
- ・グローバル市民を身近に感じてもらうことができた



**グローバル市民としての自覚をもって  
行動することが大切！**



# ウクライナ 大使館訪問



# ウクライナ大使館を訪問した目的



[ファイル:ウクライナ大使館全景.jpg - ウィキペディア](#)

ユネスコ委員会では大使館訪問を毎年行っています。

今年は、「ウクライナ国民が戦争・平和に対してどのような思いを抱いているのか知りたい」「ウクライナの文化に興味がある」という意見が多かったためウクライナ大使館で働く人に話を聞きに行くことになりました。



ウクライナについて知るためのプレゼンテーションを聞かせてもらい、その後はそれぞれの委員が話を聞きながら抱いた疑問や前もって考えてきたことに基づいて質疑応答を行いました。

ウクライナの方の生の声が聞けるという非常に貴重な機会となり、たくさんの学びが得られた一日でした。

# 学んだこと

ウクライナの伝統的な料理や文化、歴史また、実はウクライナ発祥であるものについて教えてもらいました。

政治や国際情勢以外の観点からウクライナを捉えなおす良い機会になりました。



ウクライナ発のゲームやアプリ。  
Grammarlyは元々知っていたので  
ウクライナ発と聞いた時は驚いた。



# 学んだこと

ミサイルによる集中攻撃がウクライナでは日常の一部になるほど続いており、今も抜き差しならない危険な状況が続いている。しかし、学校での授業をずっと止めたままにしておくことはできないため地下にシェルター兼学校であるものを作ってそこで授業を行っているのだ。このシェルター学校は閉鎖感が強く、今までとのギャップで強いストレスを感じている子供たちも少なくない。

また、一週間のうち使用できる電気がとても限られていたり買い物も簡単にはできない状況であったりと、ウクライナの一部での生活は今でも困難な状況である。



# 大使館を訪問した 生徒の反応

- 「大使の方が自分の国の文化を広めたり日本に避難してきた ウクライナ人のコミュニティーを作ることモチベーションにしていると聞いて、すごく尊敬した。」
- 「政治的なところに目がいきがちで、ローカルな視点の文化や地理的なことに疎いなど感じた。」



# 港ユネスコ協会主催の講演会・多文化理解 ワークショップ

- 玉川大学の小林亮先生による基調講演を聴講。ユネスコ精神が掲げる「平和の文化」の意義について学びました。
- 文化の優越性や共通点をテーマにしたワークショップに参加。多様な文化への理解と、対話によるつながりを実感する貴重な機会となりました。



# 感想

- 文明や宗教ごとに「絶対真理」が異なるという話から、自分の価値観がすべてではないと気づきました。ユネスコ精神とは、そうした違いを理解し、共に生きていく姿勢だと実感しています。
- 一つの正義を押しつけるのではなく、多様な文化が持つ人間観をどう統合していくかが問われているのだと思いました。

# 日本語スピーチコンテスト運営ボランティア

- 日本語を学ぶ方々が自らの経験や思いを日本語で語り、参加者同士が自由に交流するイベント。
- 委員は、第二部の交流会で参加者が自然に会話を始められるように声をかけ、対話をつなぐ役割を担いました。



# 感想

違う国の出身でも、文化を尊重しながら話すことで、国の垣根を越えた交流ができました。すべてを受け入れるのは難しくても、学ぶ姿勢が大切だと感じました。多くの人が国や人種の壁を越えて協力できれば、それが平和につながると思いました。



# 「世界の記憶から平和を考える」シンポジウム

- 増上寺が所蔵する仏教経典がユネスコ「世界の記憶」に登録されたことを受け、「世界の記憶の意義と役割」をテーマとして行われた。
- 「世界の記憶」事業の解説、増上寺大蔵経の歴史的価値についての講演が行われ、記録遺産を未来へ継承していく意義について学びました。



# 生徒発表「若者からの期待」

本校1・2年生を対象に実施したアンケート結果

「世界の記憶」の認知度が低い⇔「もっと知りたい」生徒が多い

→関心を持つきっかけが不足

## 提案

- 増上寺のイベントで「世界の記憶」を紹介する特別ブースを設置する
- 図書館や区民センターなどの公共施設で展示や体験の機会をつくる
- 国民が候補を提案できる仕組みを取り入れ、制度をより開かれたものにする

☆地域・公共施設・国が連携することで、「世界の記憶」をより身近な文化資源として社会全体で共有し、未来へ継承していくことができるのではないか

# 生徒の感想

- 大きな会場での発表に最初は緊張したが、講演が非常に興味深く、貴重な経験になった。
- 自分たちの提案が参加者から好評だったことが嬉しく、高校生の視点の大切さを感じた。

